



第2回コンパクトなまちづくり大賞 個別事業部門 国土交通大臣賞

地区名：道後文京地区 受賞者：松山市（愛媛県）



50万都市 松山市

■松山市の概要

《四国初の50万都市・松山市》

総面積：429.40 km² 人口：507,399人（令和2年（2020）4月1日現在）

世帯数：236,676世帯 人口密度：1,181人/km²

松山市は、愛媛県のほぼ中央にある松山平野に位置し、面積は429.4km²で、四国最大の人口約51万人が暮らす県庁所在地です。また、「いで湯と城と文学のまち」として知られ、日本最古の湯といわれる「道後温泉」や、現存12天守の1つである「松山城」を有し、近代俳句を確立した俳人・正岡子規はじめ多くの文人を輩出するほか、子規の親友であった文豪・夏目漱石の小説『坊っちゃん』や司馬遼太郎の小説『坂の上の雲』の舞台になるなど、文学的土壤が豊かなまちです。

松山市は、江戸時代、戦国大名である加藤嘉明が、松山平野の中核部にある勝山に城郭を築き、麓に城下町を開くため、石手川及び重信川の水流を変え、用地を確保し現在のまちの骨格ができました。また、松山の名は、慶長7年（1602）加藤嘉明が築城にかかり、翌8年（1603）松山城と名づけたことになります。明治6年（1873）に愛媛県が設置され、県都となり、明治22年（1889）12月15日、全国で39番目の市として市制が施行され、政治・経済の中心都市として成長してきました。昭和20年（1945）空襲で市街地の大半を焼失しましたが、戦災復興土地区画整理事業により、市内中心部は城下町の区画を基本としつつ、比較的広い幅員の道路が整備されました。この間近隣25町村を編入併合し、人口も順調な増加を示し、平成17年（2005）1月、松山市の北に隣接し、河野氏の本拠地として栄え、海・山の豊かな自然環境を有する北条市及び松山市の北西の海上に位置し、忽那氏の本拠地として栄え、「みかんとトライアスロンの島」として知られている中島町と合併し、四国で初の50万都市となりました。松山市では、松山城を取り囲むように、商店街・銀行・病院・大学・官公庁などがあり、それらを囲んで17都市しか残っていない路面電車が走っています。郊外に向けては、JR予讃線や伊予鉄道郊外線が放射状に延び、鉄道が無い地域を中心に路線バスが運行されるなど、公共交通網は比較的充実している都市です。

現在、高次な都市機能と、豊かな自然、伝統ある歴史・文化等を活かし、「人が集い、笑顔が広がる、幸せいっぱい」を将来像に、市民とともに日本一のまちづくりを進めています。

I. 地区の概要と課題

■道後文京地区の概要

《道後文京地区 = 観光拠点の道後温泉地区 + 医療・教育拠点の文京地区》

・道後文京地区は、松山市内の城北エリアに位置しています。主には道後温泉本館を中心とした観光拠点から成る「道後温泉地区」と、松山赤十字病院や立命館大学愛媛大学・松山大学などの医療・教育文化拠点から成る「文京地区」で構成され、市中心街地活性化基本計画のエリアに位置しており、両エリアで112.0haの面積です。

・道後温泉地区は、平成6年（1994）12月に国の重要文化財に指定された道後温泉本館を中心に、約500m圏内に、

道後酒店や旅館・ホテルなどの商業施設（宿泊施設）、松山市立子規記念博物館や湯楽城跡、国指定の重要文化財

である伊佐爾波神社及び一通上人誕生地の宝嚴寺、四国塙場 55番所の石手寺など歴史・文化施設などの観光資源

が集積しており、四国を代表する観光地です。飛鳥山空港からはリムジンバスが利用でき、所要時間約40分、JR

松山駅市内中心部の松山市駅からは市内電車（路面電車）を活用できる都市型駅舎です。

また、景観計画区域にも指定され、従来からの道後公園などの緑豊かな自然に加え、民間施設のファサード整備など、景観形成を促進している地区です。

・文京地区は、松山城の北側で、市内電車の沿線に位置しています。松山市的主要な医療機関である松山赤十字病院は、地域医療機関の急性期後方支援の役割を担うなど、地域完結型の体制整備において重要な地域医療支援病院です。

また、国立大学法人愛媛大学や松山市、愛媛県立松山北高校、松山市立東中学校、松山市立東雲小学校など、児童

教育から高等教育まで、高度な教育・研究機関が集積しています。松山市内外から人材が集まる場所で、松山市の

情報集積拠点及び地域社会への人材供給の拠点でもあります。

2. 取組概要

■道後文京地区的実施事業

・道後文京地区では、中心拠点誘導施設2施設の整備に加え、道路事業、街路事業による幹線道路や雨水貯留施設の整備、景観形成のための高質空間形成事業、そして、それらの効果を発揮させるための促進事業として、教育研修センター整備、ファサード整備、プロモーション事業などを展開しています。

・箇所別の事業数は、中心拠点誘導施設や道路・街路など基幹事業が9事業、効果促進事業が8事業です。

・新たな拠点整備だけでは点となり事業効果が限定されるため、面的に回遊できるエリアを構築するため道路整備なども実施しています。このエリアの特徴として、公共交通の市内電車（路面電車）があり、市内中心部からエリア内の基幹的な交通となるもので、市内電車（路面電車）の電停（駅）から新たに整備した拠点まで、年齢を問わず歩いて移動できること、昼夜関係なく、安心で安全な空間の整備も行っています。

基幹事業

【1】中心拠点誘導施設（商業施設）【道後温泉別館 飛鳥乃湯泉】

・西暦566年の飛鳥時代に聖德太子が道後温泉に来浴された際に、当時の情景を天蓋（一面）の構造で焼き替り、まるで寿園のようだと（寿園とは理想の國という意味です）抜いた情景を感じる空間を創出することをコンセプトとしています。そのため、飛鳥時代をテーマに、「椿の森」の中に湧く温泉として、作庭で土を立てて木々に、中に庭に面した憩い・竹林の場として「綠庭・広場・街路が一体となった空間整備を行っています。建物の周囲を広場が囲み、建物が主役となる道後温泉本館に対し、建物が中庭を囲む設えにした飛鳥乃湯泉と椿の道は広場が主役となり、湯上りにくつろぐ空間を創出するなど、イベント等を開催するなど、新たなまちの魅力を創出する舞台となっています。なお、飛鳥乃湯泉は、平成29年（2017）12月にグランドオープンを迎え、道後温泉に市営の温泉施設として3年ぶりに誕生した新しい温泉施設となります。飛鳥乃湯泉の基本構想は、建築界のトップランナーであり、東京大学名誉教授の内藤廣先生で、トータルコーディネートは、椿の湯周辺エリアの整備計画の策定に尽力いただいた、東京大学大学院教授の羽藤英二先生などに協力をいただいています。また、飛鳥乃湯泉の名称の由来ですが、日本の古典では湯の泉と示して「ゆ」と読んでいたこともあり、飛鳥の時代感が伝わりやすく、源泉が湧き出るイメージが伝わるよう「湯泉」と表現しています。この名称の鉱泉の文字は、奈良県の世界遺産・法隆寺の毘沙門天妙臂像に特に採用いたいたものです。法隆寺は、聖德太子が創建されたお寺で、松山市出身の俳人・正岡子規の「柿くへば 離が鳴るなり 法隆寺」の句が残るなど、交流関係が続いている。

道後温泉本館、飛鳥乃湯泉は、地下1階・地上2階建のコンクリートブロック造（一部鉄骨造）で、愛媛県産材を使用し、木質化を図っています。外観の特徴としては、飛鳥時代の建築様式に見られる、複数の建物を回廊で囲む仰軒配置を取り入れ、中庭を中心とする複数の湯と新しい施設の飛鳥乃湯泉をつなぐことで、連動性と在浴感を持たせています。また、建物の屋上部には塔屋を設け、塔屋の形は角形（道後温泉本館は四角形）で、道後温泉本館と同じ赤いガマランの窓を設置しています。さらに、その上に、道後温泉のシンボル・白鷺も設置しています。

ここ愛媛・松山にしかない唯一無二の歴史や伝統を空間の中で演出し、新たな温泉文化を発信する拠点となることを目指しています。

【2】中心拠点誘導施設（医療施設）【松山赤十字病院（北棟）】

・松山赤十字病院は、救急医療や周産期・がん治療など各医療を提供するほか、地域医療支援病院、災害拠点病院として地域にとって重要な役割を担っている医療機関ですが、建物の大半が築30年以上を経過するなど、施設や設備が老朽化しており、早急に耐震化を図る必要がありました。また、松山赤十字病院では、現地から外へ移転する構造もありましたが、隣接する市立東雲小学校用地（国有地）を購入することで可能となり、市中心街地である現在地で診療を継続しながら建て替えることが可能となったのです。

・病院機能の充実や免震化により、地域のかかりつけ医からの紹介患者や大規模災害時の重症患者などを受け入れることで、市民・住民が安心して住み続けることにつながっています。

・新病棟は、旧病棟の約1.4倍の敷地面積となっていますが、隣接する市立東雲小学校の用地を新規取得することによって、現状の診療を縮小することなく維持しながら建替えをすることができることになりました。現地建替えを行うために工期を2期に分けて行っており、1期工事は平成26年（2014）7月の小学校のブルー解体から始まり立体駐車場及び市道付け替工事の後、小学校の南校舎の解体後、北棟工事を行い平成30年（2018）1月4日に北棟オープンとなりました。

・新病棟は免震構造で、北棟は地上6階・地下1階建てで、外部部門・放射線診断・治療部門・手術室・産科病棟などからなり最新の医療機器を整備し、これまで以上の高度・専門医療が提供できることになりました。引き続き2期工事の南棟（地上10階・地下1階）の建設を進めており、令和3年（2021）3月にオープン・グランドオープンは、令和4年（2022）の予定です。

基幹事業

【3】道路事業【駿屋町護国神社前線】

・道路沿いには、医療施設や教育施設が集積しており、また多様な交通手段により多くの人が集まる所となっています。通学・通勤の時間には混雑し、通行に支障をきたしていることから、安全で快適に利用できる交通環境を整備することが課題となっていました。そこで、沿道にある松山赤十字病院や市立東雲小学校・東中学校の建て替えにあわせて、自転車レーンを備えた道路とし、誰もが移動しやすい安全で快適な道路空間を創出することを目指し、整備を行っています。

【4】道路事業【東西付替え道路】

・市立東雲小学校の道路は、幅員が狭く、歩道を設定していないことから、児童を含む歩行者の安全が確保されていませんでした。そこで、通学路として安全に利用できる歩歩分離の新設市道の整備を行いました。

【5】街路事業【中央循環線】

・路線は、国道196号と道後温泉地区を連絡する松山市を代表する道路で、防災計画の主要避難路に指定されています。また、整備当箇所は、安全かつ円滑な道路交通の確保や災害に強いまちづくりを推進する第6期の無電柱化推進計画の合意区間に指定されており、無電柱化を推進しました。また、地域の指揮緊急避難場所や指定避難所である愛媛大学や松山大学、松山北高等学校、市立東雲小学校、市立東中学校へ、円滑かつ迅速に避難できる経路の確保を図っています。

【6】地域生活基盤施設【雨水貯留施設整備】

・隣接の市道駿屋町護国神社前線では、大雨時に道路冠水が恒常に発生し、通行に大きな支障をきたしていました。主要避難路の通り支障は、災害時や緊急時の緊急車両の運行に影響を及ぼし、医療機関へのアクセスに課題が生じていました。そこで、松山赤十字病院の整備をして、教育研修センター整備の一環で、地下部に雨水貯留槽を整備しています。

【7】高質空間形成施設【上人坂道路景観整備】

・道後温泉駅からの動線となるよう、上人坂道路景観整備を行い、市民や観光客に対して歴史や文化を発信、新たな賑わい施設を整備し、地域の活性化を促進すること目的に、交差点部の用地購入等を行いました。

【8】高質空間形成施設【道後4号線】

・道後温泉地区の観光産業である旅館・ホテル群と新たに整備する中心拠点誘導施設の道後温泉別館 飛鳥乃湯泉をつなぐ市道道後4号線の高質化を行うことで、観光客など来街者の回遊性を高める整備を行いました。

【9】高質空間形成施設【道後5号線】

・中心拠点誘導施設の道後温泉別館 飞鳥乃湯泉の南側に隣接する市道道後5号線は、元の車道幅員は4mでしたが、飛鳥乃湯泉の整備にあわせ、車道幅員を5mに、新たに歩道幅員2.5mを設け、石畳や照明灯を整備することで、歩行者空間を創出しました。

効果促進事業

①【伊佐庭處矢頭顕彰事業】

・道後温泉地区で、明治27年（1894）の道後温泉本館改築に尽力した道後温泉地区的偉人である伊佐庭處矢頭さんを顕彰する事業を実施しました。明治23年（1890）に、伊佐庭處矢頭さんは道後湯之助初代町長に就任しました。道後の繁栄を祈り、道後温泉本館の改築に当たっては、「道後温泉は日本一の名湯だから、それに相応しいものを建ねたい」とダメだ。100年経ってもそれがあまり似つかないものを作ってこそ、それが初めて命を貢献しました。人が集まってくれると町が潤い、人々孫々までの利益になると」という言葉を残しています。この「まちづくりの精神」を受け継ぎながら、まちの発展を目指していくことを松山市と共にするとともに、観光客等へは観光コンテンツとして、その生涯の物語をPRしました。

②【道後温泉本館改築120周年記念事業】

・道後温泉地区的新たな賑わい創出を目的に、道後温泉本館改築120周年を記念して、アートの大祭「道後オセンセナート2014」を開催しました。「温泉」という地域資源と、「アート」を掛け合わせ取り組み、ホテル・旅館の客室などに、空間演出を施して宿泊できるアート作品として展開するなど、地元の開発団体と連携して、道後温泉の新たな魅力を発信することができました。

③【教育研修センター整備事業】

・文京地区は、愛媛大学や松山大学、また、市立東雲小学校から高校まで（市立東中学校、松山北高等学校）が集積している教育エリアです。中心拠点誘導施設の松山赤十字病院の整備に伴い、市立東雲小学校と東中学校の建替整備を契機として、老朽化していた東雲小学校の耐震化に併せて、同小学校の空用地を活用し、平成28年度（2016）に「松山市教育研修センター」を開設しました。教職員研修事業、学校支援事業、松山の教育研究開発事業、教育の情報化推進事業など教育向上に取り組んでいます。

④【電車用管路整備事業】

・中央循環線の無地中化整備に伴い、道後文京地区の基幹交通の一種である公共交通の市内電車（路面電車）の地上機器の地中化に取り組み、緊急輸送道路である中央循環線の機能を向上させるとともに、公共交通の安全性向上を支援しました。

⑤【都市構造に関する基礎調査】

・道後文京地区を含めた都市構造の調査、分析を実施し、公共交通事業者とパリアフリー化等の協議を行った結果とともに、今後の都市機能施設や公共交通等の方向性を調査しました。

⑥【景観まちづくり事業】⑦【ファサード整備事業】

・中心拠点誘導施設の道後温泉別館 飞鳥乃湯泉の整備に向けて、平成27年（2015）12月から平成28年（2016）11月にかけて、地元団体（道後温泉内会）が主体となり、桜の湯周辺の良好な景観形成を目的としたワークショップを6回開催しました。その中で、地元の景観まちづくりに向けた機運が高まり、平成29年（2017）3月に既存の「景観まちづくりデザインガイドライン」を改訂し、新たに「活潑・個性」をテーマとしたガイドラインに追加しました。また、平成29年（2017）9月～平成30年（2019）1月で、「デザインガイドライン」に沿った飛鳥乃湯泉・桜の湯周辺の景観整備を実施（5件）しました。

⑧【桜の湯プロモーション事業】

・中心拠点誘導施設の道後温泉別館 飞鳥乃湯泉を含め道後温泉地区的魅力を積極的に情報発信するため、WEBサイトを構築し、分かりやすい施設紹介の動画を作成するなど、新施設の機運醸成を図りました。現在も継続して、地域資源である温泉や歴史・文化を発信することで、新たなファンの獲得を目指しています。

3. 発現した成果

■都市再生整備計画の基本目標の4つの指標「松山市観光入込客数」「道後温泉宿泊者数」「市内電車電停利用者数」「中心市街地活性化基本計画区域内人口の増加」の推移

